

令和8年度採用

寄宿舎指導員選考検査問題

専門教養

【正答例】

解答時間 10時35分～12時05分(90分)

(含 一般教養)

*	*
---	---

---

受検番号	氏名	*

\*印欄は記入しない。

1 次の各文は、法令の条文である。(1), (2) の法令名を解答欄に記せ。また、(A)～(F)に当てはまる語句を解答欄に記せ。

(1)

第四条 すべて国民は、ひとしく、その能力に応じた教育を受ける機会を与えられなければならない、人種、信条、性別、社会的身分、経済的地位又は門地によって、教育上 ( A ) されない。

第四条 2 国及び地方公共団体は、障害のある者が、その障害の状態に応じ、十分な教育を受けられるよう、教育上必要な ( B ) を講じなければならぬ。

(2)

第七十二条 特別支援学校は、視覚障害者、聴覚障害者、( C ) 障害者、肢体不自由者又は病弱者（身体虚弱者を含む。以下同じ。）に対して、幼稚園、小学校、中学校又は高等学校に ( D ) 教育を施すとともに、障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るために必要な ( E ) を授けることを目的とする。

第七十八条 特別支援学校には、( F ) を設けなければならない。ただし、特別の事情のあるときは、これを設けないことができる。

4 点 × 2 = 8 点

(1)	教育基本法	(2)	学校教育法
-----	-------	-----	-------

2 点 × 6 = 12 点

(A)	差別	(B)	支援
(C)	知的	(D)	準ずる
(E)	知識技能	(F)	寄宿舎

2 次の各文は、生徒指導提要（令和4年12月）において、「チーム学校」として機能する学校組織に必要な4つの視点を抜粋したものである。これについて次の問い合わせに答えよ。

- 教員が教育に関する専門性を共通の基盤として持ちつつ、それぞれ独自の得意分野を生かしチームとして機能すると同時に、①心理や福祉等の専門スタッフを学校の教育活動の中に位置付け、教員と専門スタッフとの連携・協働の体制を充実させること
- 校長のリーダーシップが必要であり、学校のマネジメント機能をこれまで以上に強化していくこと
- 教職員がそれぞれの力を発揮し、伸ばしていくことができるよう、人材育成の充実や業務改善の取組を進めること
- 教職員間に②「同僚性」を形成すること

(1) 下線部①について、心理や福祉等の専門スタッフに該当する例を2つ記せ。

(2) 下線部②について、教職員間で形成される「同僚性」について、具体的に説明せよ。

(1) 2点×2=4点 (2) 6点

(1)	スクールカウンセラー	スクールソーシャルワーカー
(2)	教職員が気軽に話ができる、実践について困ったときに相談に乗ってもらえる、改善策や打開策を親身に考えてもらえる、具体的な助言や助力をしてもらえる等、受容的・支持的・相互扶助的な人間関係が形成されること。	

3 次の各文は、医療的ケア及びその家族に対する支援に関する法律の一部を抜粋したものである。 (1) ~ (5) に当てはまる言葉を語群より選び、記号を解答欄に記せ。ただし、(4) には同じ言葉が入るものとする。

第二条 この法律において「医療的ケア」とは、(1) による呼吸管理、  
(2) 吸引その他の医療行為をいう。

第二条 2 この法律において「医療的ケア児」とは、日常生活及び社会生活を営むために(3) に医療的ケアをうけることが不可欠である児童をいう。

第三条 4 医療的ケア児及びその家族に対する支援に係る施策を講ずるに当たっては、医療的ケア児及びその(4) の意思を最大限に尊重しなければならない。

第十条 2 学校の設置者は、その設置する学校に在籍する医療的ケア児が(4) の付添いがなくても適切な医療的ケアその他の支援を受けられるようするため、(5) 等の配置その他の必要な措置を講ずるものとする。

【語群】

ア 恒常的	イ 作業療法士	ウ 喀痰	エ 保護者	オ AED
カ 一時的	キ 人工呼吸器	ク 本人	ケ 看護師	コ 主治医
サ 胃ろう	シ 導尿			

2点×5=10点

(1)	キ	(2)	ウ
(3)	ア	(4)	エ
(5)	ケ		

**4** 次の（1）から（5）は、学校等における熱中症対策について説明した文である。これらの文が正しければ○を、誤っていれば×を解答欄に記せ。

- (1) 活動中やその前後に、適切な水分等の補給や休憩ができる環境を整える。
- (2) 運動の際には、気象情報や活動場所の暑さ指数（WBGT）を確認し、熱中症予防に努めるが、指導者の経験や感じ方を重視し、計画どおりに実施できるよう指導すべきである。
- (3) 校外活動など、普段と異なる場所等で活動を行う際には、事故防止の取組や緊急時の対応について事前に教職員間で共通認識を図る。
- (4) 運動強度・活動内容・継続時間の調節は児童生徒等の自己管理にまかせ、指導者等は児童生徒の申し出があれば調節する。
- (5) 児童生徒によっては、熱中症を起こしていても、「疲れた」等の単純な表現のみで表すこともあることに注意する。

2点×5=10点

(1)	○	(2)	×	
(3)	○	(4)	×	
(5)	○			